

2025年6月30日

学校法人三幸学園
大宮ビューティー&ブライダル専門学校
校長 岩崎 和友 殿

学校関係者評価委員会
委員長 吉野 秀樹

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 吉野 秀樹 (株式会社 La Blanche 代表取締役)
- ② 本野 真衣 (株式会社 クレス 総務/人事課 主任)
- ③ 江口 怜那 (第12期卒業生)
- ④ 栗原 由香理 (学校法人三幸学園飛鳥未来きずな高等学校 大宮キャンパス)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月17日 (会場 大宮ビューティー&ブライダル専門学校 2号館 602教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024年度 学校法人 三幸学園 大宮ビューティー&ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

責任者：副校長 和田 忍

学校関係者評価委員会委員長：吉野 秀樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学校の規模が大きくなり、新しい教員も増え、後輩育成に関してや学生指導の統一などの課題が多くなった。改めて学生指導の「基本」を徹底するという目標を昨年に続き掲げて行った。目標を全体会議等で全教員へ浸透させ、全教員が学生を成長させるための教務運営を実施した。また、学校行事、就職指導、授業などを連動させ、『素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材を育てる』ことを意識した教務運営を行った。広報活動ではそれぞれの教員に担当を立て、広報方針を少人数で決定し全メンバーへ発信する形式をとった。それにより課題解決がスムーズに進み、少子化が進む中、例年通りの入学者を迎えることができた。また就職活動では、ビューティー分野・ブライダル分野順調に内定を頂くことができた。企業やサロンとの連携も年々、増えており多くの卒業生の活躍にも繋がっている。今後は、後輩に本校を勧めたくなるような教務、就職活動を行う必要があり、次年度に向けてさらに底上げした学校運営が必要になると感じている。

② 学校関係者評価委員会コメント

なし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野共に学校の理念、目的、育成人物像は業界ニーズに向け方向付けをされており、明確に学生、外部へ提示している。学生へは入学直後の研修、2年間の就職対策、学校行事等で周知をされており、保護者に関しては、保護者説明会を実施したが、参加率を見ても、浸透度でいうとまだまだ課題感がある。関連企業様についても、訪問や企業連携を通して周知していきたい。

② 今後の改善方策

今後さらに保護者様への理解を深める為に、継続して対面での保護者説明会を実施していく予定をされており、参加率向上のための施策を検討中。関連企業様に関しては就職ガイダンスに絡めて学校運営の説明会などを実施。一方的な情報発信ではなく、相互に情報交換ができ、理解しあえる関係性の構築を進めていきたい。また、保護者向け連絡ツール(スクレ)を導入し、保護者連携を強めていく予定。

③ 特記事項

教職員へは定期的に三幸学園のミッション・ビジョンなど浸透させる機会(全体会議や学科教科会など)を設け、継続的に実施している。また、保護者・学生へは入学前の保護者説明会にて教育方針等の理解と協力を要請している。入学前は、オープンキャンパスでの体験入学(個別相談会)・入学前オリエンテーション・保護者説明会等を開催。入学後は、スタートアッププログラムにて、学校の理念・目的・育成人材像を周知し、そこに向かうべく、個々の目標設定を普段の学校生活で実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・吉野委員(全学科について): 貴校の学生は、真面目で素直な学生が多い印象。反応があり、聞く姿勢もある。
- ・本野委員(全学科について): 自身で目標を決めて動いてくれており、前向きに業務に励んでくれる。
- ・江口委員(全学科について): 在学時はオープンキャンパススタッフを行っており、そこで学校理念を話す機会があったので把握していた。ただ、クラス全体が把握しているかという曖昧なところがある。親とも学校理念を話す機会はあまりないので、親も把握はしていないと思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

目的に沿った計画を基に事業計画を立てて運営をし、運営組織は年次ごとに組織構築し効率を図っている。外部への教務活動に関する情報は公開をされているが、周知や理解度は低いため周知活動が必要と感じる。情報システムの効率化も進んではいるが、まだ効率が悪い部分もあるため順次導入を進めていく予定。

② 今後の改善方策

教育活動の外部への周知を行ううえで、外部の情報も取り入れながら当校の取り組みも発信できるシステムや機会を増やす必要がある。

③ 特記事項

教職員への案内はタイムリーな情報提供・ペーパーレス化を目的とし、Microsoft Teams・Sanko Gateにて実施している。システム化されているものとしては出退勤時間の入力、経費精算システムでの申告、給与明細の電子化などが挙げられる

④ 学校関係者評価委員会コメント

・吉野委員(全学科について):社会では情報システムへの移行やペーパーレスに伴うシステム化が進んでいるが、美容、ブライダル業界はアナログな現場が多いため、もしかしたらギャップを感じてしまう可能性がある。新卒を受け入れる企業側は、新入社員に意見を求めて、使いやすいツールを選択させ、実際にツール活用ができるような現場作りが必要。また、積極的に現代の学校教育を知っていく必要がある。

・本野委員(美容科・ヘアメイク科・美容研究科について):機能によっては使い勝手が悪い部分もあり、アナログの方がよかった面もある。学校でも、良い部分は活かし、アナログ手法も併用しつつ指導いただけるとありがたい。

(3) 教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員的能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

学校理念、業界等に照らし合わせた教育活動は適正に行われ、資格検定の取得に向けた枠組みも構築は出来ている。またカリキュラムは教育課程編成委員会での意見を参考にし、業界の人材ニーズに照らした内容編成を行っている。ただ、多様化する学生に対応するための研修、情報を取り入れられる機会はまだ不十分に感じる点も多く、教員の対応力を高めなければならない。

② 今後の改善方策

今後は学生と関わる全教員に向けて学生理解を深められる研修を実施。また、優秀な教職員を確保していくため、卒業生のキャリアステップとして教員という手段があることを浸透させていきたい。また、卒業生採用の新しいフローを進めていく予定。

③ 特記事項

前後期ともに教員の授業力(専門性・実践力)を向上させ、学生の授業に対する満足度を高めることを目的とした「授業の進め方アンケート」を実施。その結果を教科担当者にフィードバックをし、改善につなげている。引き続き、産学連携や地域貢献への取り組みを行い、実践的な活動を多く行う予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・栗原委員(全学科):現在、通信制高校が増えており、大宮周辺でも10校を越えている。自分の好きな時間に学校にいけるから、「学校が楽しい」と思っている。社会や専門学校と、通信制高校のギャップを埋めるため、時間割等に工夫をしている。通学が困難な子どもには、いわゆる「保健室登校」を対応するように推進されているため、サポートが当たり前を受けられる時代となっており、サポートをしてもらえる環境下にいる学生が、高校・専門学校・社会人へと進んでいく。通信高校側でも引き続き工夫をしていくが、カリキュラムや教育方法の開発について、今後もぜひ実施してもらいたい。

・江口委員(全学科): 高校生のときに参加したオープンキャンパスと入学後のギャップについては、あまり感じなかった。入学後のオリエンテーションでもしっかり説明がされていたので、そこに沿った指導を受けても疑問にも感じなかった。何事も始める前の事前説明は大切だと思う。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野ともに就職率は横ばいの状況である。ただ、退学率の低減は引き続き課題となっており、学生の間関係構築力を上げていくための施策を考えなければならない。また、卒業後のキャリア形成の効果を把握するためにも、卒業生の活躍がタイムリーに分かるよう、学校との繋がりを作る必要がある。

② 今後の改善方策

人間関係を構築する上ではコミュニケーション能力が必要となるため、学生同士、卒業生、企業様など、様々な立場の方とコミュニケーションが取れる機会を設ける必要がある。また、卒業生を対象とした「同窓会 LINK」を、より有効活用する。またプチ同窓会を開催し、卒業生のコミュニケーションの場を設けられるように準備を進めている。

③ 特記事項

卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のHP及びInstagramの活用や支援の取り組みを実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・吉野委員(美容科・ヘアメイク科・美容研究科):卒業生の活躍を就職ガイダンス等で話をしている。サロン見学、サロンワーク、面接の3点を面接時に見ており、一番重要なのは、いま働いているスタッフとマッチングするかどうか。今後も就職率の向上に向けてぜひ指導を続けてほしい。
- ・本野委員(美容科・ヘアメイク科・美容研究科):笑顔、挨拶、人柄を面接時に見ている。将来的にスタイリストになった時に活躍できるか、コミュニケーション力も見ている。
- ・江口委員(全学科について):就職活動時、雰囲気や職場環境を第一に考えていたが、それでも勤務時間や手当、給与は必ず見ていた。入職後に給与体制変更があれば説明も大切だが、入職時にも資格取得等による昇給があるのであれば前もって提示する必要があると思う。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

担任制で各クラスに担任がいる環境を作っているが、教職員のキャリアサポート力の平均化がなされていない点がある。就職活動では、学生本人への指導は図れているが、保護者様との連携が取れていない面が課題。キャリア育成は学科により特有性はあるものの、概ね就職支援環境は整っている。

② 今後の改善方策

教職員のキャリアサポート力を向上させる為に企業訪問を行い、企業様が求めている人材像を把握し、学生達へのキャリアサポートを実施する。学生が求める就職先、職種が幅広くなってきたことに対応するため、キャリアサポートのチームを作り、就職率の向上に取り組んでいる。

③ 特記事項

学生の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンを案内している。

学生の生活環境への支援としては、提携している寮等の案内がある。

高校との連携では、職業紹介のガイダンス等で協力を行っている。

退学者に対するアンケートを実施し、今後の学校運営に役立てている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・吉野委員(全学科):入学時に行われている「スタートアッププログラム」を拝見させていただき、入学前からの支援の大きさを実感した。

・本野委員(全学科):たくさんの学生を紹介いただいている。担任・企業担当と連携をよく取っていると思う。困りごとなどがあった際は、学生だけではなく企業から学校へもすぐ相談できる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

学生増加により、施設や設備の工夫と整備が必要と感じる面もある。また、海外研修については、時期を分けて内容の違うものを提案し進めていく必要もある。

防災対策は整備されているが、定期的な意識付けの必要がある。

② 今後の改善方策

施設、設備面については学生の増加に合わせ、どう工夫しよりよい教育環境が提供できるか、今後整備を進めていく。防災対策については、教職員会議での防災訓練や講習(ADE 研修会など含む)などを実施する。

③ 特記事項

企業と連携をし、現場が求めている人物像をキャッチし、インターンシップ前の指導及び終了後の指導・アドバイスなど事後指導の実施をして、卒業後に現場で活躍できる人材を育成する。

防災・安全管理において、非常食・飲料水などの備蓄品や職員室内の防災用品の設置を進める。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・吉野委員(美容科・ヘアメイク科):学外実習を受け入れて、そのまま就職に繋がってくれたら嬉しい。学外実習の期間が長いので、弊社での働き方を知った上での募集であれば、とてもありがたい。

・本野委員(美容科・ヘアメイク科):今回内定を出した学生も、学外実習に来てくれた学生。企業としても学外実習を重視している。大変ありがたい。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

埼玉県や専修学校各種学校のガイドライン等に沿って適切に行っているため、特に大きな課題はない。引き続き、高校側に対して本校の学校教育にご理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただくよう努める。

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

高等学校の特別授業等で業界の魅力を伝える活動を行っている。

入学前のイメージと入学後のギャップを持たない情報伝達に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価にもとづいた問題点の改善を図っているが教職員への周知徹底ができていない。

② 今後の改善方策

教職員への継続的実施と問題点の明確な洗い出しと迅速な改善策をする実践必要がある。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

産学連携を定期的に行うことができおり、学生が外部へアウトプットする機会の増加と、地域貢献・社会貢献に関する活動をする機会が増加した。これからも定期的に機会をもらえるような企業とのつながりを作ることが必要である。

② 今後の改善方策

学生に学び、成長のあるボランティア活動の増加のために、地域・関連企業との関係性の継続と開拓を行う。

③ 特記事項

近隣にある通信制高校の進路発見の一部である体験授業への講師派遣を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないと感じている。

1年間を総合的に振り返ると、各種アンケート数値(学生満足度・教職員への評価)や、資格検定取得率アップ、就職率向上など、結果が出せたと言えるが、多様化する学生指導・支援を求められることが昨今。対応方法や工夫には課題感が残る。2024年度の良い部分を踏襲し、自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる人材を輩出する学校になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

2025年度も引き続き、学園のミッション・ビジョン実現とビューティー分野・ブライダル分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向け一層取り組み、多くの方に理解・浸透が図れるよう努め、社会人として当たり前のことを当たり前に行えるよう「基本に忠実に、継続する」ことを念頭に普段の学校生活から「習慣化」させる。その為に普段の学校生活の過ごし方を見直し、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作りをし、学校としての存在価値を高めていきたい。